

酒造用好適米系統「ちくし酒57号」の育成					
<p>[要約] 酒造用好適米系統「ちくし酒57号」は、成熟期が「山田錦」より2日～3日程度早い“中生”である。「山田錦」と比較して、<u>耐倒伏性は優れ</u>、<u>いもち病圃場抵抗性は“中”～“やや強”</u>とやや優れる。収量性、玄米品質は同程度、<u>酒造適性は同程度に優れる</u>。</p>					
担当部署	農産研究所・育種部・水稻育種研究室			連絡先	092-924-2937
対象作物	水稻	専門項目	育種	成果分類	品種育成

[背景・ねらい]

近年、米の消費量が低下している中で、米の需要拡大が緊急かつ重要な課題となっている。その一方で、県産米の消費拡大を図るため、実需者や生産者から県独自の酒造用好適米品種の育成が強く要望されている。

そこで、酒造用好適米品種「山田錦」と比較して、同程度の酒造適性を有し、栽培特性が優れた品種を育成する。

(要望機関名：南筑後普・農業振興課(H8)、飯塚普(H13))

[成果の内容・特徴]

平成4年に「(中間母本農10号/山田錦)F₁」を母、「ミヤコ95」を父とした組合せの中から育成した。「山田錦」と比較した特性は以下のとおりである。

1. 出穂期、成熟期は2日～3日程度早く、“中生”である(表1)。
2. 稈長は短く、穂長はやや短く、穂数はやや少ない“偏穂重型”である(表1)。
3. 耐倒伏性は優れ、穂発芽性は同程度の“易”である(表1、2)。
4. いもち病圃場抵抗性は葉いもちがやや優れる“やや強”、穂いもちが同程度の“中”である。白葉枯病圃場抵抗性は同程度の“中”である(表2)。
5. 収量性は同程度である(表1)。
6. 千粒重はやや軽い(表1)。2.0mm以上の粒厚割合はやや少ない(表3)。
7. 玄米の形状は同じで、大粒である。心白米の発現率はやや少なく、その大きさは同程度である(表3)。玄米品質は同程度である(表1)。
8. 酒造適性は砕粒率がやや少なく、吸水性、直接還元糖、粗蛋白質含有率及びカリ含有率は同程度に優れる(表4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 職務育成品種として届け出予定。
2. 大規模の醸造試験による評価が必要である。

[具体的デ - タ]

表 1 栽培特性

品種名	試験年度 (平成)	出穂 期	成熟 期	稈 長	穂 長	穂 数	倒伏 ²⁾ 程度	精玄 ³⁾ 米重	千粒 ³⁾ 重	検査 ⁴⁾ 等級
ちくし酒57号	10-13	8.22	10. 1	88	19.5	314	1.0	46.0	25.9	3.8
山田錦		8.24	10. 4	102	20.7	329	3.1	46.8	27.1	4.1

注) 1. 農産研究所水稻育種研究室、以下記載ない表は同じ。移植期：6月7日～14日。施肥量(窒素成分)：4～5 + 2 kg/10a。 2. 障害の多少：0(無)～5(甚)。 3. 玄米 2.0mm以上。 4. 検査等級：0(特等)、1(1等上)～9(3等下)。

表 2 耐病性及び穂発芽性

品種名	試験年度 (平成)	圃場抵抗性			穂発芽性
		葉いもち	穂いもち	白葉枯病	
ちくし酒57号	10-13	やや強	中	中	易
山田錦		中	中	中	易

表 3 玄米の形状及び心白発現程度

品種名	試験年度 (平成)	粒形 ¹⁾	粒大 ¹⁾	粒厚別重量割合 ²⁾				心白 ³⁾ 発現率	心白率 ³⁾
				2.0mm以下	2.0-2.1	2.1-2.2	2.2mm以上		
ちくし酒57号	11-13	4.8	6.5	11.3	18.3	64.9	5.6	78.4	58.2
山田錦				4.2	14.1	62.8	15.6	84.1	62.5

注) 1. 粒形：3(丸)～5(中)～7(細長)。粒大：3(小)～5(中)～7(大)。 2. 各々200gを5分間縦目篩にかけた。 3. 玄米2.0mm以上を供試し、各々200粒を調査した。
心白発現率：(心白発現粒数/全粒数)×100。
心白率：[(5×心白大の粒数+4×中の粒数+2×小の粒数)/(5×全粒数)]×100。

表 4 酒造適性

品種名	試験年度 (平成)	精米 歩合	砕粒 率	吸水性		消化性		粗蛋白質 含有率	加 含有率
				20分	120分	Brix	F-N		
ちくし酒57号	11-13	72.1	4.6	28.6	31.0	11.6	1.0	5.3	390
山田錦				28.3	31.2	11.3	1.0	5.2	387

注) 1. 福岡県酒造組合に分析を依頼した。 2. 評価の目安(以下の値ほど良好)
吸水性：差が小さい。 Brix(直接還元糖)：多い。 F-N(ホルモール窒素)：少ない。
粗蛋白質含有率：少ない。カリ含有率：400ppm前後。

[その他]

研究課題名：新たな食味・健康志向等、多様な需要に応じた品種の育成

予算区分：経常

研究期間：平成13年度(平成5～13年)

研究担当者：濱地勇次、川村富輝、和田卓也、大里久美、今林惣一郎、安長知子、西山壽、吉野稔

